

第6章 まとめ

阿賀野市では、平成17年度に『健康あがの21計画』を作成し、だれもが安心していきいきと暮らせる阿賀野市をめざし、市民の健康づくりに努めてきました。この間の変化としては、大きく見て以下の四点が考えられます。

- ①市の人口は平成17年には48500人程度ありましたが、平成22年末には46295人と2000人以上減少しています。出生数は323人から307人へと減少した一方、65歳以上の高齢者は11509人から11850人と増加し、高齢化率は26%を超え、ますます少子高齢化が進んでいます。要介護者も18.6%と増加傾向です。
- ②景気の低迷で収入が減少したり、リストラされて就職できない人などもおり、将来に不安を抱いている人は少なくありません。また、家族形態の変化や勤務体制の多様化、携帯電話やインターネットの普及により、家族や地域での人と人とのつながりが少なくなっている状況にあり、人間関係は希薄化しています。
こうした人間関係や生活環境の変化でストレスを抱える人も増え、うつ傾向になる人も多くいます。
- ③夜型の生活リズムや食生活の偏りなどから、健診結果に異常所見のある人は増加傾向で、将来糖尿病などの生活習慣病がますます増加することが危惧されます。
- ④団塊の世代を中心に健康に関する意識は高く、禁煙する人は増えています。また、積極的にウォーキングなどを行う人も増えていますが、継続的な運動習慣は未だ各年代に定着していないのが現状です。

今年度は計画の中間評価の年であることから、市民3,000人を対象に47項目のアンケート調査を行いました。また健診等事業の評価を行い、目標とした指標の値が達成されているのか、目標に近づいているのかの評価を行いました。

その結果、55ある目標指標の達成状況は、すでに達成されたもの8指標(15%)、近づきつつあるもの18指標(33%)、遠のいているもの18指標(33%)、評価できずが11指標(20%)でした。また、課題が明確になったことから、一部指標の修正も行いました。

市民アンケート調査には、市民の皆様はじめ、健康推進員の皆様から猛暑の中、配布と回収のご協力をいただき誠にありがとうございました。お陰さまで中間評価をまとめることができました。

地域や人とのつながりが希薄化している時だからこそ、健康の切り口で健康づくりの輪を広げる必要を痛感しています。

市民1人ひとりがいきいきと幸せに暮らし続けることができ、健康寿命が延び、阿賀野市に住んで良かったと思えるよう、最終年度の平成26年度に向け、目標を目指し、家庭、地域、関係機関、行政が連携し、それぞれが役割を担い一層努力して、取り組んでいきたいと思えます。